

1. 会長就任の挨拶 (原田 賢治 記)

若葉、青葉が目にしみる今日・この頃、今の時季鯉幟が、方々で元気よく泳いでいる姿をよく見かける、だが今は”ふれあいセンター前広場でしか、その姿をみる事が出来ない。寂しい気持ちです。時の流れでしょうか？

四月の総会で、規約の改正がありその結果、私がお会長の重責を受けることになりました。気力・体力共に衰え、果たして重責が勤まるだろうか？不安のきもちでいっぱいです。皆様のご協力、力添えをいただき職責を全うしたいと思っております。

よろしくお願いたします。里山ビオトープ二俣瀬の発足以来15年目を迎えました。これも一重に、会員一人ひとりの力大きな輪となり、力となって今日を迎えています。これからも、自然環境教育の場・市民憩いの場・二俣瀬をアピールする場を基本コンセプトに全員が力を合わせ、市民の皆様に親しまれる場所づくりを目指して頑張ります。

2. 活動報告 (事務局 記)

—5月3日(日)参加者は田村・落合副会長以下、会員14名でした。

- ① 作業実施前に以下の内容について協議いたしました。
 - ・簡易トイレの設置場所
 - ・傷害保険の説明
 - ・参加留学生に対する会費の取り扱い
 - ・伐採した竹の処理
 - ・次回観察隊の段取り
- ② 作業内容：雨の中、以下の作業を実施いたしました。
 - ・水路周辺の草刈り・溝あげを実施、これは水路管理組合の溝普請に先立って行ったものです。
 - ・市道の照葉樹の落葉が水路に吹き込まない様に、排除しました。

—5月16日(土)親子自然観察隊(野鳥観察)

参加者は、会員11名と観察隊5家族(親5名と子供7名)でした。

宇部野鳥保護の会の3名の講師とビオトープを出発して、二俣瀬市民センター・二俣瀬小学校から国道2号線へ行き、厚東川の橋を渡って右岸を下り、また橋を渡って左岸を下り、駐車場からビオトープへ帰りました。東屋で観察できた野鳥を確認しました。

今日見たり声を聴いたりした野鳥は23種でした。

3. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—

◎行 事

—6月6日（土）稲作体験・田植え（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会を招聘）

—6月20日（土）維持管理（草刈）

4. 来訪者の声

—4月22日 昔は何処にでも見られていた筈の水生植物たちに心洗われました。（宇部マニアックス）

—4月26日 宇部マニアックスさんのfacebookを見て来ました。息子が大喜びでした。大きな水車にびっくりしてました。（記載者 不明）

5. 会員の声【 我が家にツバメがくる Part-1 】 （原田 満洲夫 記）

現在地に家建て早35年になる。長屋という名の別棟もつくった。いずれもこのあたりの典型的な建て方である。この形式の家は、十数年前までは、どの家にもツバメが巣作りをし、家族を増やして秋には南に帰って行くという季節の便りとなっていた。バブル期にほとんどの家が改築、新築されツバメが巣作りをする場所がなくなって、その光景を見ることが少なくなったが、その中で、私の家には建てからもずっとツバメが来ることがなかった。

しかしながら、5月8日、今年初めてツバメが家の中まで飛んできた。初めは一羽が長屋の一階車庫の中を探索するかのように飛び込み・飛び出ししていたが、そのうち、おそらく夫婦であろう二羽が本屋の付け出し部屋軒先下を巣作り場所に決め、飛び回っている。

軒先は本屋のガラス戸をあけると手が届く位置にあり糞尿をされると困るので、日曜大工よろしく、糞尿防御の為に巣作りが容易になるよう受け皿を作ってやった。

当のツバメは遠方より眺めていて、その日は中には入ってこなかったが、あくる5月9日朝より夫婦ツバメは、はじめは警戒していたが、気に入ったのであろう2時間ぐらいたってから、巣作り用壁泥を運び込んできた。今後は卵を産み、雛が孵化し成長する事を、たのしみに観察したい。だけど通路のガラス戸を締め切るとは出来なくなった。秋の南へ帰るまでは、仕方がない不用心ではあるが開けっ放しでがまんしよう。

“ツバメ来て 普通の家と なりにけり”

6. 親子自然観察隊（ 中本 亜矢子 記 ）

5月のテーマ「野鳥の観察」は、5家族の参加（子ども7名）だった。宇部野鳥保護の会員3名を講師に、ビオトープ周辺の散策をして、声だけの確認も含めて23種の野鳥を確認した。

当日は朝方まで雨天だったので心配していたが、集合時間直前に雨があがった。曇り空のなか、ビオトープを出発して二俣瀬市民センターにむかって歩いていくと、姿は見えないが、さまざまな野鳥の声が聞こえた。講師の方が「この鳴き声はホトトギスだよ」「これはシジュウカラ」など、その都度教えてくれるのがありがたかった。ウグイスはよく鳴いているが、どうしても姿が確認できない。シジュウカラは二俣瀬の市民センター付近に巣があるらしく、つがいが確認できた。その後、二俣瀬小学校から国道2号線へ行き、厚東川の橋を渡って右岸を下り、また橋を渡って左岸を下り、田んぼのあぜ道を通って駐車場からビオトープへ帰った。国道2号線や人家付近ではドバトやスズメ、つばめやカラスなどが確認され、厚東川付近ではダイサギやカルガモが確認できた。山の高いところでは、トビが大きな翼を広げて悠々と飛行しており、田んぼの上ではヒバリが賑やかにさえずっていた。

こうしてみると、私たちの身近なところに多くの鳥が生息していると実感するが、なにぶん知識がないのと視覚で観察できる鳥が少ないので、特定できる鳥は少ない。普段は、固有名詞でなく、「鳥が鳴いている」というのを認識するだけで終わっていることが多いのが残念である。

鳥の観察では望遠鏡がないと、観察した実感がわきにくいように思うが、なかなか自前の望遠鏡を持っている親子は少ない。野鳥保護の会の皆さんの望遠鏡を皆で覗いて観察させていただいたが、鳥はじっとしていないので、順番を待っている間に飛び立ってしまうことも多い。

東屋に帰り、本日観察できた野鳥の確認をした。

また、野鳥の図鑑を2冊寄付してくださったので、参加された親子であみだくじを引いて、当選した親子が持ち帰ることとなった。

以下、確認した鳥の種類を掲載する。

ホトトギス、シジュウカラ、ウグイス、アオサギ、カワウ、スズメ、ツバメ、ホオジロ、ハシボソカラス、ハシブトカラス、カワラヒワ、ハクセキレイ、コケラ、ドバド、ヒバリ、ダイサギ、カルガモ、トビ（以上18種は視覚で観察）

キビタキ、コジュケイ、ヒヨドリ、アオゲラ、セグロセキレイ（以上5種は声のみ観察）



観察へ出発



市民センターにて観察

親子の感想

★月本直秀さん

鳥や鳥の巣、鳴き声を見たり聞いたりして、面白かったです。ホトトギスは鳴き声と飛んでいる姿を見れたのでよくわかりました。最後にくじで本が当たってとても嬉しかったです。

★月本直秀さんのお母さん

身近にいる鳥、普段は気にすることもなく過ごしていますが、ゆっくり観察出来て勉強になりました。

2回目ですが、毎回自然とともに暮らしているんだなと実感出来る行事で、子供も五感をフルに活用して、自然観察をしていると感じます。次回も楽しみです。お世話になりました。

★永富花音さんのお母さん

自然に触れ合うと心が和みますね。野鳥観察は初めての体験でした。その都度説明して頂き、とても関心が持てて解りやすかったです。

「色々な鳥が見られてとても楽しかった。」と子供も喜んでいました。

7. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(29) コフキトンボ *Deielia phaon*

トンボ科 **Libellulidae stephens** <コフキトンボ属> *Deielia Kirby*

シオカラトンボと間違えやすい少し小型のトンボ、5月より10月まで見られます。全国に生息域をもっていますが、皆さんにはあまりなじみのないトンボだと思います。主に平地や丘陵地の植生豊かで腐食栄養型のため池や湿地、大きな湖や水郷地域の溝川などにも生息します。宇部市では厚南地区下流域の中川調整池、山口市秋穂干拓地のクリーク、厚狭津布田地区の大きなため池などにも見られます。ビオトープにも飛来してこないか心掛けているのですが、まだ確認できていません。

地方により翅に褐色のオビが入る種もいますが、山口県では見当たりません、どこかで探してみたいと思っています。沖縄地方や九州佐賀のクリークには見られます。



コフキトンボ ♂



コフキトンボ ♀



コフキトンボ♀群（下4頭）とコシアキトンボ♂（上）

8. 会よりの連絡事項

- 1) 河崎会員が手配するといわれていました簡易トイレは、いろいろの経緯をして岡村恵子会員の簡易トイレ(Secondhand)を寄贈頂きました。長年の念願でありましたが、ついに解決しました。設置場所は会員いろいろ協議され利用頻度・汲み取りを考慮して駐車場の片隅に決まりました。地主の方にも内藤会員により連絡を取り了解を得ています。
基本的には活動日のみ施錠が外され、利用でき外部者は使用禁止です。管理者は原田満洲夫が行いますが、会員の皆様も清掃・ペーパー・汲み取り時期に気を付けて使用してください。

9. 編集後記

親子自然観察隊の野鳥観察に、小学校1年生の長男と年中の長女と参加しました。これまで時々皆さんの活動にちょっと混ぜて頂き、雰囲気を感じさせて頂くくらいでしたが、初めてこの度きちんと子どもたちは観察隊の活動に参加させて頂きました。鳥を見つけながら周辺を歩いていく途中、「のどかわいた～。ジュース買って～。もう帰りたい～。だっこ～。」…、もう、本当、お恥ずかしい限りです…(水筒を忘れたのもいけなかったんですけど…)。でも、講師の方々がとてもよく準備をされていて、ポイントポイントでかわいい鳥たちを望遠鏡で見せてくださったり、鳥たちの今の様子(巣での様子など)をお話をしてくださったりして、親自身もとても楽しかったです。子どもたちも、望遠鏡を覗くこと自体がとても珍しいようで、興味深く覗いていました。また、かわいい鳥たちを望遠鏡でみると、とてもうれしそうに「みえた～♪」と言っていました。自分で見つけた鳥については、とてもうれしかったらしく、いつまでも「ダイサギ見つけた！」と言い、特に心に残ったようです。良い体験をさせて頂き、ありがとうございました。また次の活動がとても楽しみです。

(大野 靖子 記)